

### 高速道路の下の 孤独なSUP探訪

光が少ないほど、人の目が届かないほどゴミが増える川の傾向をまさに体現した川で、橋の上から話しかけてくださる方の声もなかなか聞こえないほど地上までが遠い場所もある。また、高速道路の車の音で水上での会話もかき消され、前回

同様、孤独な探訪となる。そんな時に心なやませられるのが、ボラの集団と水面を飛ぶトンボだ。あの台風を乗り越えたのだと元気づけられ進み、横浜港に出た感動は格別だ。

堀川筋の高架橋は、地域環境に調和し景観に優れた高架橋に与えられる『田中賞』を受賞しているようだ。

同じ高速道路で覆われた川でも、中村川より堀川の方が明るい雰囲気があるのは、海が近づくからだけではないようだ。



元町と中華街の間を静かに流れ、山下橋の下をくぐり、横浜港に出る。開放感と湖の香りに癒される。撮影:豊田直之

## 大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人

ぐみょうじ車屋呉服店 店主  
吉原 清次郎(よしはら せいじろう)さん



「小さな店ですが、これからも大岡川の桜をテーマに、色々な作品を作り続けたいですね」 撮影:豊田直之

記者たつての願いで登場していただいた弘明寺の「車屋呉服店」二代目店主。三代目の息子さんと共に、流域で創業70年の老舗呉服店を営まれている。

大岡川名物の桜の図案の着物や帯、また、流域で役目を終え伐採された桜の枝で染めた、桜染めの着物や帯の制作を続けてこられたことでも知られる。

桜染の着物の、「はぎれ」だけが残る初期の物や、近年作られた反物を見せていただいた。染める絹糸の種類や染め方、織り方で雰囲気は異なるが、こげ茶色の枝で桜色に染まるのが面白い。春色の優しい風合いに触れると、川を縁取る桜並木の賑わいが聞こえてくるようだ。

呉服屋としてできることをやっただけと謙虚だが、原動力は大岡川への愛着にほかならない。

遊び場だった大岡川が、小学

生の頃には染染工場の排水で紫色に染まるようになり、そして、少しずつ綺麗になってきた移り変わりを、暮らしの中で見守り続けた方の話には説得力がある。「川は汚れたが、地域が潤い発展した歴史でもあるからね」と聞き、その時々で葛藤しつつも

懸命に生活を守ろうとした流域の人々に思いを馳せた。

大岡川談義は尽きず、「流域で分け隔てない交流ができるといいね」「上流に架かる小さな橋の由来だって面白いよ」とヒントも沢山いただき、志新たに後ろ髪引かれる思いで店を後にした。

横浜市南区大岡2-21-13  
http://www.kurumaya.tv



三代目制作の桜の色無地に2パターンの帯を合わせていただいた。こだわりの品揃えにも感動。

## 『第6回・7回 川でつながるSDGs交流会』 多彩な顔ぶれの講演者に、 毎回熱き盛り上がり!

たいていこのような会は、開催も数回を過ぎると飽きが来るのか、参加者も減少傾向にあるものですが、この会はますます熱を帯びてきています。

7/24(水)に行なわれた

第6回は、三承工業株式会社の寺田有希美さん。初の女性スピーカー登場。女性が活躍できる環境や場づくりについて。また同社・西岡徹人社長には、建築・リフォーム会社としてのSDGs

の取り組みについて、ソーシャルアクションカンパニー株式会社の佐藤正隆氏には独自コインを付与して社会貢献を可視化するアクトコインについてのお話をいただきました。



第6回でお話しいただいた岐阜の三承工業株式会社の寺田有希美さん。 撮影:今井俊志

第7回は、9/25(水)に行われ、公益財団法人地球環境戦略研究機関の藤野純一氏と片岡八束氏、株式会社太陽住建社長の河原勇

輝氏、横浜市資源リサイクル協会の戸川孝則氏も加わってのクロストーク。藤野氏が制作に大に関わった太陽住建のSDGsレポート

を中心に、河原社長がSDGsの世界大会である国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF2019)に参加するためにニューヨーク入りした際のよもやま話などで大いに盛り上がりました。

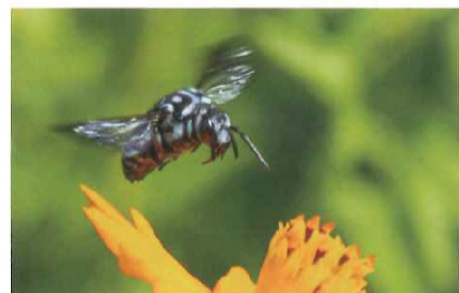
次回は、11/27(水)に開催予定です。

『川でつながるSDGs交流会』  
についてのお問い合わせ  
株式会社大川印刷  
TEL 045-441-2011  
FAX 045-441-2014  
E-mail  
magokoro@ohkawa-inc.co.jp



第7回も会場はほぼ満員。大いに盛り上がりました。特にこの回では2~3名によるクロストークとなったため、それぞれの方のキャラクターが話の中に見え隠れして、とくく偏りがちなSDGsの話題も偏らず、とても興味深い講演となりました。 撮影:今井俊志

### 大岡川の『生き物みつけた!』No.14 ナミルリモンハナバチ



時期は限られますが、北海道を除く日本全国で見られます。ハナバチだけに花から花へせわしく飛び回ります。撮影:道下勝基

ハチといえば黄と黒が定番ですが、このハチは鮮やかな青と黒のボーダー柄の体を持つことから別名ブルービーとも呼ばれています。生息数が少なく地域によっては絶滅危惧種にもなっ

ているため、見ることが出来ればラッキーで、『幸せを運ぶ青いハチ』とも呼ばれています。

ミツバチの仲間ですが巣を作ることはなく、他のハチが子育

てのために花粉や蜜を蓄えた巣に卵を産み付け、生まれた子はその花粉や蜜をエサとして横取りし成長します。『労働寄生』と呼ばれるこの行動は野鳥のカッコウなどの托卵にもみられます。

生息数が少ないのは、生息環境の減少も一つの原因かもしれません。ここにも命を育む自然環境の大切さを感じます。

夏の終わりから秋の初めに見ることができます。氷取沢(ひとりざわ)でコスモスの花に集まるチョウの撮影中に運良く見つけることができました。ミツバチと同様に攻撃的なハチではありませんが、見つけたらそっと観察したいものです。



青と黒の模様が美しい。撮影:道下勝基

湘南太陽会グループは  
人々の心とからだの健康を総合的に支援します。

湘南太陽会

毎日診療しているクリニック  
SHONAN TAIYO 鳥居泌尿器科・内科 [金沢文庫]

Ai i 23 clinic 23時まで診療しているクリニック  
相生23クリニック [関内]

駅前21時まで診療しているクリニック  
ねぎし泌尿器科・内科 [根岸]

泌尿器科トラブルの総合カウンター  
スカイビル腎・泌尿器科クリニック [横浜]

ATYO HYKEN 株式会社 太陽住建  
Taiyo Jyuken

0120-460-025 横浜市港区井土ヶ谷下町 6-1  
リバーサイドマンション 1 階

ぐみょうじ 車屋呉服店  
Gumyoji Kurumaya

〒232-0061 神奈川県横浜市南区大岡2丁目21-13  
電話番号 045-713-6108  
営業時間 10:00-19:00 定休日 毎週木曜日

横濱の老舗  
勝烈庵